

# PBLの現在地を探る

— 日米におけるPBLの今までとこれから —

日本の高等教育(大学)では、1990年代以降、医療系・工学系分野を中心に「課題を見つけ、考え、行動しながら学ぶ」PBL (Project/Problem Based Learning) が盛んに導入されてきた。最近では人文・社会系大学においても過疎化や少子化など、地域社会が抱える課題の解決を目指す地域貢献型PBLなどが、全国的に普及・拡大している。

一方で、日本の初等中等教育(小中学校、高校)においては、大学ほどPBLの普及は進んでいない。こうした状況を踏まえ、本研究所では小中学校の「総合的な学習の時間」を活用したPBLの実践支援(名古屋市)や、PBLアドバイザー養成講座の開催を通じて長年その普及に努めてきた。

今回のPBL メッセ& エドビジョンセミナーでは、日本の初等中等教育でPBLが広がりにくい根本的な要因を整理するとともに、その制約を乗り越え、先進的な実践を展開する学校事例を紹介する。

さらに、米国のPBL先進校(MNCS)の現役アドバイザーを招き、海外の最新の実践動向を共有し、米国のPBLの現在地を確認するとともに、パネルディスカッションを通じて日本におけるPBLの今後の課題を参加者とともに検討したい。

2026年6月20日(土) 13:00~16:45 (開場12:30)

東京電機大学 東京千住キャンパス 5号館 5203、5204教室

## 講演

東京電機大学 教授

広石 英記 日本の中等教育におけるPBLの課題と挑戦

Minnesota New Country School Director

ポール・イェーガー MNCSのPBLの現在

通訳 立命館大学 講師

板垣 静香



## パネルディスカッション

パネリスト

ポール・イェーガー MNCS Director

市川洋子 敬愛大学 教授

広石 英記 東京電機大学 教授

土田 雄一 敬愛大学 教授



## PBLアドバイザー 認定式